

恵庭市の混合発酵事例

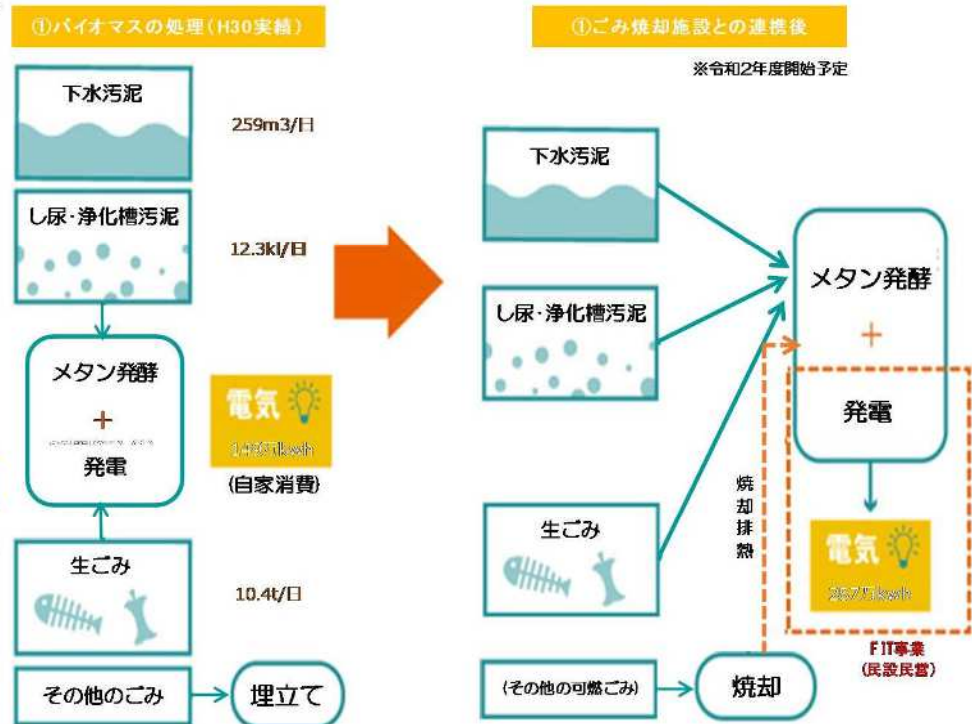
1. 事業概要

事業方式	①公設公営 ②PFI事業(民設民営)	処理対象物	①②下水汚泥、し尿・浄化槽汚泥、生ごみ(家庭系、事業系)
事業費	①約10億円(下水処理場) ②民間事業者により発電設備整備		
供用開始	①H24.9 ②R2年度予定		

①バイオマスの処理(集約後) ②ゴミ焼却施設との連携後

2. 施設概要

- 受入れる食品系バイオマスを家庭系、事業系一般廃棄物として、廃掃法に基づく一般廃棄物処理施設設置届提出
- 家庭から出る生ごみを下水汚泥及びし尿・浄化槽汚泥とあわせバイオガス発電し、バイオガスの半分は場内暖房や消化槽の加温に使用。
 - ◆汚泥混合設備 ◆脱硫設備
 - ◆ガスタンク ◆発電設備
- 下水処理場の隣に新たに整備されるゴミ焼却施設の焼却排熱を場内暖房や消化槽の加温に利用する予定。それに伴い発生するバイオガス全量をFIT制度を活用した民間事業者に売却し、事業者が売電を行う予定。
 - ◆発電設備(民間) 施設外観



ばんけいリサイクルセンター（環生舎）の堆肥化システム

項目	内容
施設名（システム名称）	ばんけいリサイクルセンター 石狩生ごみリサイクル工場 環生舎 一般廃棄物処理（堆肥化）施設 食品残渣再生利用施設
所在地※	石狩市新港中央2丁目757-11
事業主体※	ばんけいリサイクルセンター
事業範囲※	食品残渣再生利用
開始年度	2003年度
インプット※ （受入バイオマスの種類と量）	生ごみ 10,000 t/年 ふん尿 バーク、剪定枝チップ
処理・リサイクル方式※	堆積循環送気発酵
アウトプットと利用先※	農業利用

ばんけいリサイクルセンター（環生舎）の堆肥化システム

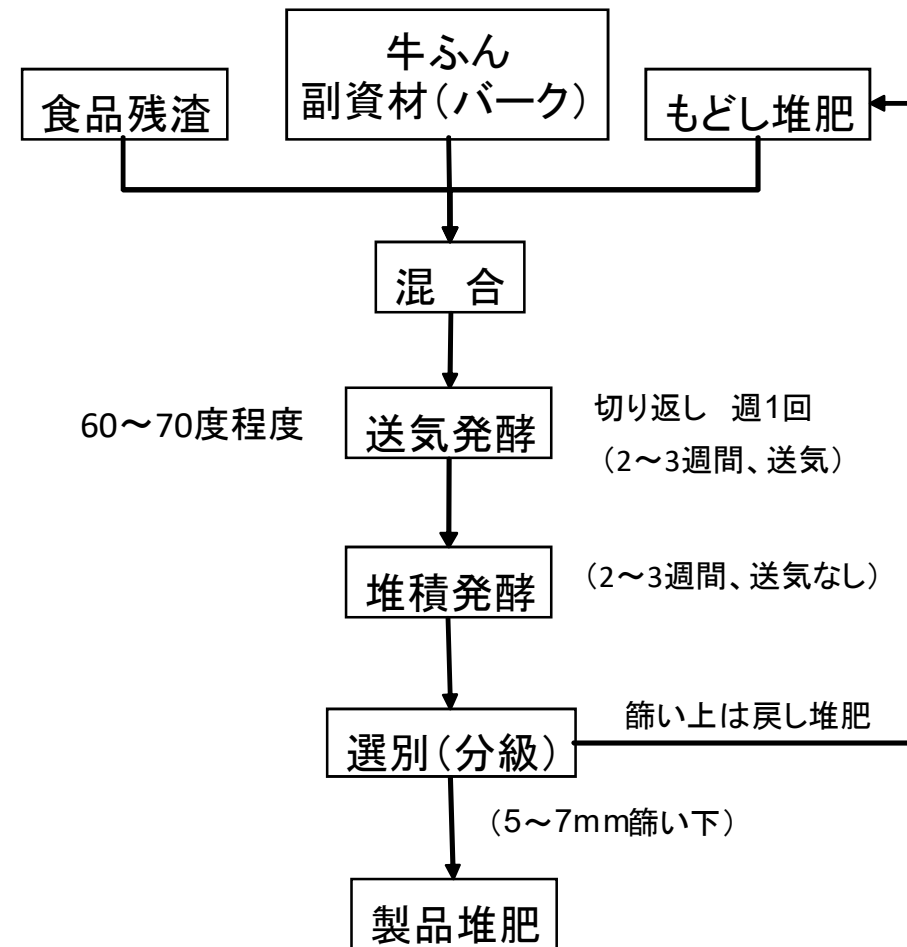
○変換技術

食品残さ、牛ふん、バークの混合物を堆積し、ホイールローダーで週1回程度切り返ししながら、2～3週間送気を行い発酵を促進している。その後、2～3週間、送気無しの条件で堆積発酵させる。さらに、製品堆肥として出荷する前に、ふるいで分級し、未発酵堆肥および木片などの粒径の大きなものを戻し堆肥として利用、発酵促進剤として混合工程へ返送している。

発酵に伴う施設内の臭気への対処が必要となるが、施設に隣接する土壌脱臭施設へ発酵棟内の空気を送り臭気を取り除いている。

○アウトプット

環生舎で生産された堆肥は全て農家利用されている。また、他の事業所・作業所では、海鮮パワー、ヒトデパワー、発酵貝パワーといった商品で販売されている。



ばんけいリサイクルセンター

